

ひきこもり支援における本人及び家族 との対話交流と支援体制づくりについて

三重県明和町における 本人との対話を通じた支援

社会福祉法人 明和町社会福祉協議会
地域福祉係 山田 奏

三重県明和町のご紹介



松阪牛で有名な松阪市と伊勢神宮のある伊勢市に
挟まれた人口2万2千人余りのこぢんまりとした町。
令和5年度ひきこもりサポート事業受託
令和7年度ひきこもりステーション事業受託

初めて出会った当事者の方に教えてもらったこと

困窮相談に訪れたお母さん。息子が働いてくれれば何とかなるんだけど…。

今度連れてきます、と毎回お母さんは言ってくれますが、そりゃ来てくれません。

そんな折、自宅洗濯機が壊れてしまう事態が…。買い替えるお金はありません。

そこで、寄付でお預かりしていた洗濯機をお渡しする事を提案。

「私一人では倉庫からご自宅まで運ぶことができないので、息子さん手伝ってもらえたりする可能性ってありますかね？」

「どうだろう……。聞いてみます」→その日のうちにOKのお返事がお母さんより

出会った時点でのご本人（当時18歳）の 状況（これまでの母親からの話し）

- ・中学1年生の夏休み明けから完全不登校。自宅から殆ど出ない
- ・家族はそうなった原因を全く把握していない
- ・中学3年生時（進学時）、「もう少しこのままでいさせて欲しい」
- ・進学はせず、自宅でひきこもり生活
- ・家族は部屋で何をしているのかわからない
- ・時折、夜中ジョギングへ長時間出ていく
- ・家族での会話はほぼない。働くように言うが「もう少し待ってくれ」と言うだけ。
- ・家族以外との接点は皆無。

知らない態で関わりを開始。

私は使える洗濯機を届ける福祉のおっさん

あなたの今の生活を脅かす存在ではありません。

昼夜逆転していて昼前に寝始めるという事で、朝イチで自宅まで迎えに行きました。

私の第一声

「あーこんにちは。初めまして。一人では運び出せなくて、ホント助かります。ありがとうございます」

ご本人、会釈のみ

倉庫へ向かう車中での最初の会話

「結構重いですけど力仕事は大丈夫ですか？」

「…部屋で筋トレして、夜中にジョギングしたりしてるんで…」

(え…メチャ嬉しいな、トレーニングネタでメチャ時間もつやん)

車中、筋トレとジョギング話し

ジョギング話から派生して

「…なんか…時々ずっと走っていたくなるんです」(キーワード)

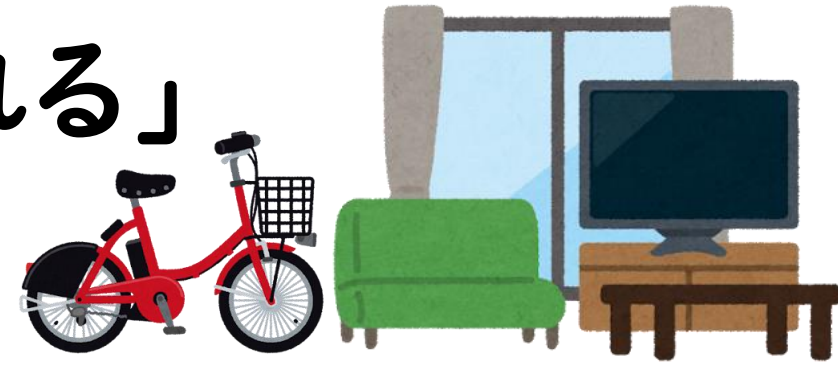
そして、私からのお願い

「結構、こうやって冷蔵庫とか洗濯機の寄付をいただく事が多いんですけど
運ぶのが大変でして、そういう時はお手伝いお願いできたりします？」

「全然いいですよ」

ここからご本人さんとの「対話」が始まりました。

ご本人との関係を「つないでくれる」 地域からのご寄付



何回かお手伝いを依頼する形で関わる中、町外から自宅整理に伴う
大量の寄付のお申し出。

早速、ご本人にお手伝いをお願いしました。

「少し遠いけど一緒に行ってもらえたりします？」

「…全然いいですよ…。」



その車中での対話が私を支援者として成長させてくれました。

対話を通してご本人のSOSが少しずつ形として理解できていく

「けっこう長い時間お付き合いいただく事になりますが大丈夫ですか？」

「…むしろ、その方がありがたいっす。」

(聞きたいけど、まだ聞かない…)

「じゃあ、他のボランティアとか作業なんかも手伝っていただけたりなんてします？」

「どんなんがあるんすか？」

「変わった作業なんですけどね、もみがらを洗うって作業なんですけど」

「やってみたいっす」

「でもお家から結構遠いんですよ」

「全然いいっすよ。歩くんで」

「えー、歩きだと1時間くらいかかっちゃいますよ」

「家にいたくないんで、家にいなくて済むなら全然いいっす」

ひきこもっていたのに家に居たくない…。
ここに込められたご本人の苦しみに触れて

ひきこもりハンドブックを読みながら 自らの支援を振り返る

☆丁寧なかかわりを行うことで、少しずつ信頼関係が構築されます。

・まずは使える洗濯機を届ける福祉のおっさんからの関わりで良かったんだ😊

☆本人が自分から「ひきこもり」に至った背景などを話してくれるまでには時間がかかるかもしれませんが、焦らず、一人ひとりのペースに合わせてコミュニケーションをはかるようにしましょう。

・支援者的にひっかかるキーワードを敢えて心に留め置いて良かったんだ😊

☆他愛のない話題であっても、支援者のことを「安心して相談できる人（本人のひきこもり状態のことに干渉や否定しない人）」であると認識してもらうためのコミュニケーションが必要です。

・筋トレ・ジョギング、音楽の話し、楽しんで良かったんだ😊

味を占めた私は…



如何にご本人と自然に出会えるツールを多く抱える事ができるか

如何にご本人と自然につながり続ける為のツールを多く抱える事ができるか

如何にご本人が真のニーズを表出させて下さった時、そのニーズに応えられるツールを多く抱えておく事ができるか

そんなことを考えながら日々の業務に向き合うこととなりました。

私自身の業務範囲

コミュニティソーシャルワーカー、生活支援コーディネーター、
ボランティアコーディネーター、災害ボランティアセンター、
支援対象児童等見守り強化事業、地域未来塾、各種募金業務
赤い羽根共同募金配分事業、福祉団体支援…etc

実はこれらの業務に…。

当事者さんと自然に出会うためのお宝

当事者さんをつながるためのお宝

当事者さんと対話し続けるためのお宝

沢山埋もれている！

＊ここで三言だけ…。

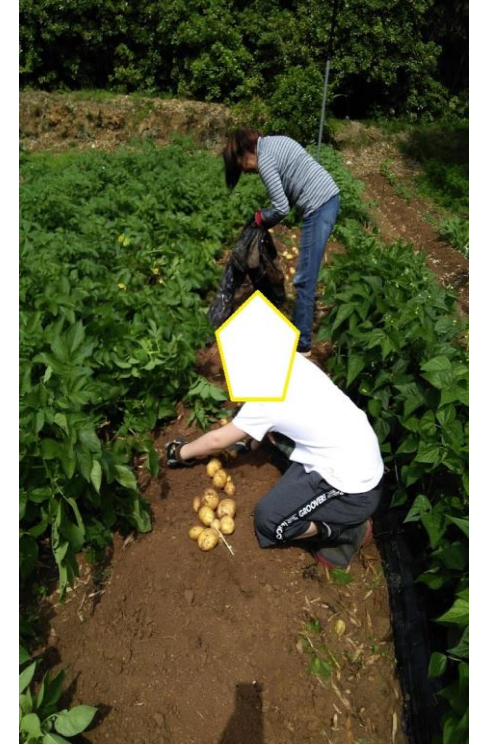
無理を言っても頑張ってくれる同僚たちに感謝☆

いつも一緒の方向で協働して下さる行政の皆さんに感謝☆

雇用いただいた農家さん企業さん、作業を出してくれる皆さん、地域での活躍の場を下さる
皆さんに感謝☆



☆地域は資源のオアシス☆ (ストレングスモデル6原則より)



ひきこもりハンドブックに勇気づけられて

もう1事例ご紹介させていただきます。

実は去年夏の初任者研修で悩んでいるケース事例として挙げたTさん。

もう、かれこれ5年のお付き合いになります。

ご本人の希望で一度アルバイト就労支援を実施しましたが、3か月後に無断欠勤が出始め、ご本人、アルバイト就労先と何度も相談を繰り返した上で、一度辞めることに。

つらい過去を背景に持つTさんから
教えてもらったこと

ハンドブックが和らげてくれた私の焦り

就労=ゴールではない。

頭ではわかっている、アルバイト就労が続かなかった時も、
「またボランティアで力を貸してよ」と言えた。

でも、

Tさんの人生、本当にこのままでいいのか？

もっと出来る事があるんじゃないのか？

ぐずぐずしてたら、家族との関係が完全に破綻してしまうんじゃないのか？

どこかでそんな事を考えている自分がいた。

<目指す姿としての「自律」>

●「自律」とは、自己を律すること、社会に適応するといった捉え方ではなく…

→Tさんが自己を律し、社会適応する姿を私は知らぬ間に求めている。

●本人の尊厳や主体性、自尊感情を回復する意味であり…

→つらい過去を背景に持つTさんの回復を支えながら待つのが私の仕事なんだと再確認。

●その自律に向けたプロセスを本人と支援者が共有しながら一歩ずつ進むことを目指すものです。

→Tさんの中にある「こうありたい」が見つかる事が自律。地域との相互作用の中でその関わり、対話を通じて、共に探していくことが所謂「伴走支援」なんだと学ぶ。

これが迷いの中でハンドブックを読み解き、Tさんとの対話を通じて辿り着いた私の思う支援のあり方です。

長谷川先生、岡本さん。この後のパネルディスカッションでもお教えをいただきたいです<(_ _)>

クライアントは支援プロセスの監督者 ストレングスモデル6原則より



近所の一人暮らしのおばあちゃんの
ゴミ出しを定期的にして下さるTさん



ベテランサポーターに植垣の剪定
の仕方を教わって作業するTさん



当事者さん同士で手に負えなくなっ
た庭木の伐採作業を行うTさん



地元明野高校福祉科マイスターハイスクール(文科省指定事業)
「虐待・不登校・ひきこもり」ゼミ生と「対話」をするTさん

次代の福祉を担う若者へ思いを伝え、地域共生社会の実現に向けて
お力を発揮していただいています。

ご清聴ありがとうございました